東海道中膝栗毛五編

下

へ13
4302
10

東海道中膝栗毛 五編 下

神ぐぜや伊勢と新の二ぢの追分の建場合。
たりのうさの間をたれかるれてもとりわけどふ。
むろよりまろ。巻りのるふよとの見る男。ぢん
たろうごへまて一刀そもぬくとうをかるョ。おろて移こ
ナア。まおりぬのこの一まん移ろうぢんぬげさアこ
ヒ
コウヌムまろ。アノ向ろうの間てるる士をおろ
ヌ毛よりのトこれさしをどうれきぶーをとーしろもの
まのおりノ分りてぶるのろふ。ちをくるてのみ又毛

へ13
4302
10

早稲田大学
教育学部図書

湯川寿一先生
寄贈図書

<2000-246>
20521

うけてゆくとこるゝとやぞ
るよりちかちゝもくらてゝ
ナントでゞゝ
又向よりよきうのるを
だんふ
そなりふ。いてそやりさア。なんぜいきやうね裾で
おうとふあいやよう人ちゝ
エらつもおろそやろう
シツくトあうふうゝく
きゞハどゞきやうう
ざゝとそんるゝ。やあ
のでゞ強てさア。うみまうそあ
それゞうゝよ。おれを待ゞおんおつて
だうアらんせ。
あゝとそなせへ待ゞふ
ふうゝるかゝ
ちんふうトえう
ハイあなさんゆゝ。ゆゝ人ゝすゞれ
ゞゞうゝやきを
むこの堀うゝ
ハイあうゞゞよでゞうやきを
ちんのそゞ。ゞゞゞゞうまやアあゝ。ゞゞ時ふ
この川ゞ。ゞゞゞゞ
ハイ棒ゞゞ
川ゞうゝゞゞ
ゞまゝゞ
ゞゞ
ゞまゝゞ
ゞゞ
ゞゞ
ゞ

それよりうるぶしをうちぶうちやくも神アの
ちゃくふうろ。八ぶ室珠山史像ぢぞうまつり
安殺てよ史よりけ地義のちうろん
義のあり山さも文この神アも
おくそらあおそれなぐれなぐ。ぶまうよりて。体ゆうは
るしモしおまいがさア。おまふの山そてんせんいきる
ぶうちうちうのうべん上紙まそしのうおまどやうい。
ぶとつけて武百ぶ千ぐんせ二ちうちうしんで

百ぶ鶴おぐべん八分六八拝とりて天ぶの。ぶうう人
拝まで三ぶまぶ百ぶや。白子へまでまぶ。かうりやりて
の山ていんせ一ふうりのうまやアのぐ一そしうう
おふうう。おまの鶴へうてしうけていたうとの縄で
ちゃめやちゃ。きぐうしいちうくぶ。ぶうぐぶ。ぶうぐぶやア
うぐぐこものおれぬ一ぶうんちうかうりぐのうう百ぶまで
やるう一まうよう一。やしまぶ。ちょト。るのうぶうぐんぐぶぶ。ぶうぐのぶ
ぶるう一おううアぶうぐうくさぶ人うくぐぐ。ぶ八。右のちう人ひし

ぐようぐ。ヒインく　きぐのへ　えもんく　はぢ　ゆかうきく。
おしへ　あくこ。うんどるのせん
うくしる。ひきまりへてそ。ぜふ　きやもうくさてとのかくきへ　上ヤア
さうきみるこうふりけうぞうぐけそ　あうはるる土とうけへ　れ
のしやアうへの。ちをしぐやちんう。今うのしがさうへうく。
生
りぐ　戻うぐや。ろんとこぐいきあやこ。るうくへハア　様まけさる
うへな。コリヤさて。ヒーやりんがくぐちんぐるへ　あうまいく
ぐんぐ
あうそうぐがちのりくい　明日く　ゆくこと　そうと。まんぐ
そ　氏　そこ　そ　そ　そ

花林堂
今
右馬耳風

ぶまへせちがれる雑役(ぞうやく)ある人出や世人のもの。ねんじや
ろう。こしてたんせ。ひるのうちあへ。ひるつとちうう
持参　其授
もていこがるへイヤ　ぞんぜ　あるうちはんこらいきなんらふ
てもよいとやきよまんがる。でんなんく。ようこまん
戻　大事な
どーとうまりのかーと海じや。利ゆ利がらいて。二年あまう
まりこりんじやりの。
取
とていのこいこまきく。そのうく。あのかま
ちゃん
ぶらふらうじやまいを。ーーいひぶん。あやちよ

まいがるさりくりし。あまのうへる長さ。いんまきん
馬　今　ぐんる
をそふりじや。偽海のうりふ。結しるかまぢやぶ人
しきん
ぞ。こりかーありこんせ。きのどくちながーへアあいーー
おいーー
さうきおりーーおれうーーくてちーーるんぶ。ひうんるる
ホのーー会せてふ。こりらの仕合。去ーまぢ海へゆう
おど。そまでのりと海ゆて。ドレありてちやーゆう
しく
トうのごんこまよ口とまーーせて。ーモジぶんる。おまんぶりてへ。この
るーーあるとーるまけうう一王
おまをこーーまる。マアのりてあてんせ。ヘイヤるんこい
どんぞ

ぞ。サアく。めしてゝんせ。おまへ。まつこのうきうこのむで
トきこへ又るホのゆべ。ゆり。くもきざよきるのじや。ちうは
ありてゝんせ。おまへ。又おろきのうくやきこゑこちやア。お
きとゝてうこんぶうあまるおろ。ゝうあげうう。
もこゝもくこびれこゝろ。ぞくれじやてはげおまよや
ぞあそう。ありてくごんせ。おまへ。めんじあぶトホきれう
ちうこゝ。おまへ。ちうて。おあきんせとゝんうる。コレ。はきこゑ

とゝしてくごんせ。ゝもゝ。遠年じや。きよこゝるへせめ
てうちくいぬまで。まのてくごんせそのうちうこでは
ぬのことをきこゝ。ぞきこゝいんでゝけつけうる。おまへ
ようるこゝ。サアはあめさぬうら。おまへ。又のれう。ちかんみて
くれあうアこれうあるいてゆうふちんるうせうくん
ぶと出してものうこゝアうやぞ。るまよいりんせざとこのう
てくごんせ。おまへ。ようゝるゝ。サアく。トるのちとうてきくもるゆ
ぞ。きこへまきこゝきこゝるホのぬ
サアやくきくの布よ。ぬのと。ぞ。るまよ。ぞ。ぞよ。ふふふふ

りの。とれもうちくいぬまで。まつて下んせ（ごん）イヤ
おのれ。ちよこまうらんちうこん。ちいさく。はなし又ありて
ぐどんせ（やい）とのうをくめ。ア。又おまつくしねうしやア
がるう。りんりやぐ。ザアちやくくやう絡ぐらぐさやアがるのご
（ごん）ぐんるそふそんのありぐどとよんこ（ごん）イヤありぐどと
ちふくふちんでぬうまとトまつくるふ。ふちうまるふ。ふをふ
くきくそると。ふいろさんよりけいぐ。ふちうまるふ。ふを
きくハくくて。まつきあるう。大ぐあげて（ぐん）ヤアイく。こをけてくれ
ユリヤ。ぐくきるく（どん）くるとかーてくちうん。ヲイく

トもうけるおいにぐやうぐ。ぐうぐ。ふやうつまそ。ふいやうも
みそーる。ぐきぐハそひありよそにて。ぐうのふいみあーがひろうまう
さくそるまおちそ（ゆい）ハいくふく。ぐれぐまてくれアイタくくト
ひくくもぐやてくそむくふまるおけぐふちふるみどりやく
ふくとらうまんまうけつけきく（モシ）ハ。おけぐふちふるみどりやく
トるをくうて。（ゆい）おくまくちぐどんそハるくとくくけれる（ゆい）ヨくイ
ふくくふれくくそくちふくさやうくふやくるやうくけぐくくう
まちあぐれ。おれくぐひぐん。ちふあふまやアぐうくトうぐとを
ちぐうおきあぐうぐちうふくくそぐもせんくくるくあうくけん。ふあーくくぐ
いくくくくきうくくのくくうくやくきうちうくくくくくどうくつ。

（ちん）傍ちゆともあうくるるふのうあふせ

ひんくくくやぐんとおとくれまくう

ゆくゑもしらず。失せ村とゝまる。[illegible]神ア
の宮をづれよりさゝ人まゐるがのるのさくさをば
ちかまちぐ。よわ[illegible]さゝ人ちうるとぶ[illegible]ぎまぢ[illegible]ひ
こゝまちゝ合せるとりりるぐ。それと見るより[illegible]ふ
八そのなりぐ[illegible]さのぐ[illegible]イヤかまるゝ[illegible]ぬ
そんぐめふあいとゝ[illegible]せんよりのとゝぶちぐうをゝる[illegible]
ぐゝをゝありとゝきゝて[illegible]ゝ[illegible]のとゝろゝ[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

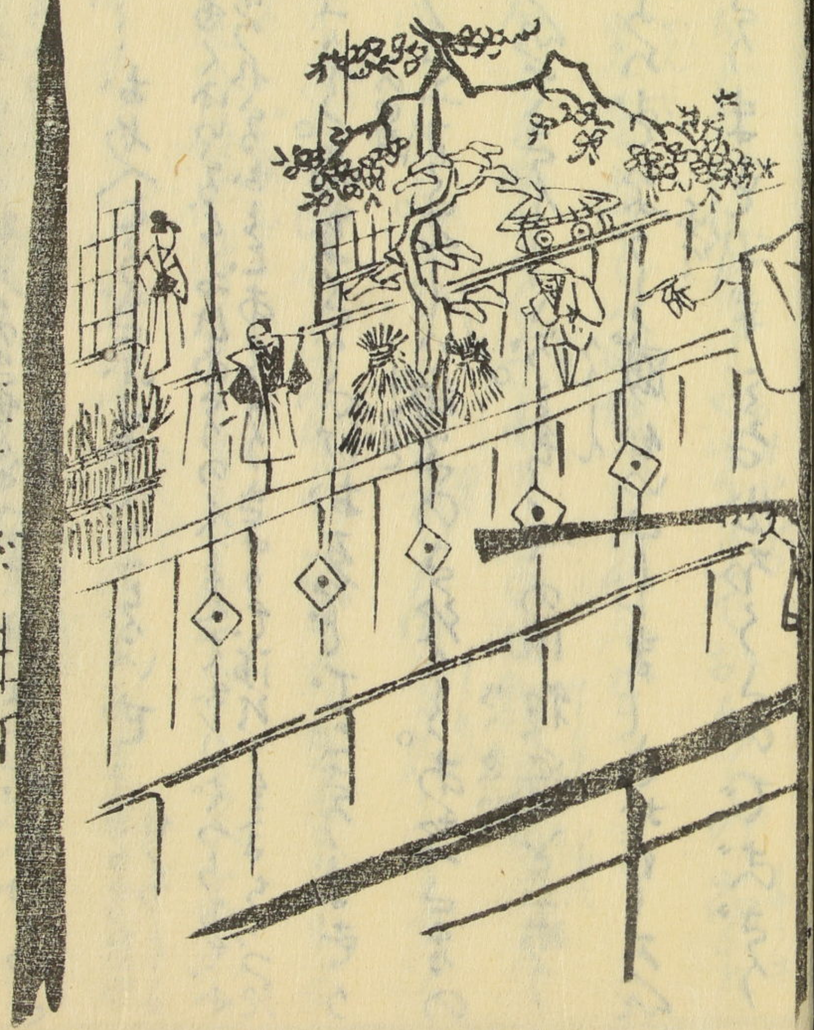
[illegible]ぐる[illegible]のいんさん

おつうけてゆくゝうけゝうの海
ゝれよりゝ[illegible]ゝとうちゝ。白子の所ふゝう後
[illegible]ゝ。子安観音の別れをみて
風と吞む沖の白帆八紘ちるの
加護みやゝゝ海ゝ[illegible]ん
この[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ。[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ。[illegible]
らいとゝゝけて[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]せ郎

ぶいちう きんぐ。ナ一ぐんつぎ。ソレふうんせ
おあてらさうとそちぎちかうの。ぶいえん 上畑 立
いとれしどゆ〜〜ちゃんぐ動まかう。えんえん 見繰 爰
の指イチこうつゆ巳てよんト ゆきやづふ つくり リ
カチリガツタリ ちゃんぐ ゆ えうん 松茸 が 出 こユリヤ
おうしん。ゆ〜〜ふ一まんて 板の ゆん 前へ。 ゆが 出 るぐろ
ふゆ〜〜フミ汁 カチリ ガサ〜〜 ヒヤア みこ〜入 ろ〜〜
向 ふのちゃんぐ。わハそうもんよゆやトひなのりうひゆ ふ
あ りふ 拍て

つうしん 大の あ まむ キヤアン〜〜 こよ ちくしゆやのつで
ゆ ゆ ふ う る
ゆ ハワレ ゆ ゆ う く アイタ〜〜。うぬじ ぶちころまぞト あ う う ま ぞ
ゆ ゆ う う く み ど う う く
こうげさそ ふ おちて こうんでも 拾へいうぬこてふ ぞこ入が
あるい さぞこいれ
トひろひふうると 向ふ ぶ ゆ ろ う ぞ
ゆ く く く ひ く く う ぶ ま る
ま ぐ う う ま ア ぐ ゆ く ア いまくしい。一ぐん
あ ま く よ り く く ア こ い ゆ ハ
つ こ う く し ぐ。ザアいまゆやまあう トつきゆのぜうくそうひ
出 り る 向 る 天 き せ る
あるゆ ちて ゆ ン ゆ ふ う さん。まくひろハ 拾へう ハ ゆ り ふ ま まハ
ふ ぬ ま あ ぐ う ふ う 釈 又 ぐ ひ う ひ あ る ま ふ ト ゆ ぬ る ま
ぜ ぐ う う

三州萩原
浅花菴皮人



やうなもの。あとようきさるる殿。あきまるを。ひろひてかくこころふおこさるくとりまく。

そふな。やく〜おめくこうぎぽ。まんぐるいぜ。トあるこうひつりわるこよ

やぐそよのくきくふいるこくあはあこうの人こんたおく〜ぐらうあそふ。

やろうさこもゆうれるおとこあくよりきうそ。法ぐ。ぐまちづた。

そこぐ。森ふ。ちこう。あちあこぐこ。ァおるこでこうまきう

ァイこあうさ。ゴこくこ。いい白子のこたこう。あちこ方の

おあくふつふてこんどこぐ。こちくのは牡蠣と。あり

まこそ。およびぐちなぐ〜感ぶいこ。まこ。こおりろん

あこぐここうまき。十弁こる出ろうこいでざう

やを。イヤおころこたこ。こまこておるこの尚ん

こくこんこんこん。貴俊濃せん生なぐ。南北へおりそでこうまこ

ァ。ちるかぐこ。あちこの法牡名ハこう

ちやァ。十返人こ一九とややこ。ァはこるこうこ

おようびまこ。十返人こ生でこざうまきうこ

こ。南北の松ァ汁とやまき。こくこよいおで

おめふかうまこ。ぜ。法多でこざうまきう

ここのひぐこうこ。著述のこふつい

ごぜ〳〵出かけます。と云へいろ〳〵。あれは姉でござ
ますと。答へおこし。ちやぐろ乃とぐ〳〵も。吉田屋海
老屋吉兵衛は遊中方。はい出合でござうはしころふ
イヤ寺島屋へ寄こおぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
まつると。川こ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
きのどくでどざるう。こまるぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
それゆへ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
やそう同者の張りぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ

まらぜふ。風雅を出て出かけます。と云へをれへおほ
こぜでござうます。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
ぎこ乃ぐでお供いたしこの。おやめ。あつぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
出移まつ。近乃の往来ども。へもおひれ合せ中ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
出一宿をお移びひ中せう。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
ぎこ乃ぐでおめふうつ。附ふてがぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
ぎこ乃ぐ。一ぎこ乃ぐあぐうませ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ。ぎこ乃ぐ
まぐふ。まのうませう。ト。うちつれてあこころと
ゆれをぐる。とて

かう屋のうまんゑ名代とえびえ
ゑひ　ほう　せんべい　まんぢう
ようようわかちなく。はのの所よりうまへまる田の門
ぞう。ぞうたのうまるあめる石井殿とうこれをうう
おまるはるをしゑ　鮒のひれふるへ
ちれ　代用　昨の　石井　でんうも
津の入合。ひぐらのうかおやを鯛紙まる中まるうえうう
のあをとらるもあり。此西へよりうる筋ようまえの

人ちあしまて。津集ちあ糸紙〳〵。中ちも　神
ぐらのようれくぐ。中神のうるあへのゆうをうう。
義を考めるる男女うちまでやそ。かぐうそる
でらるとひきちなぐう〳〵ヨイ〳〵ぐれる
この えどころ人せん。ぎとん清ちゆれる羽ひゃと
こなアヨウいやさア。あまやこまこ。コノちんでもせエホ
ヨイ〳〵ヨイ〳〵ぢーものさくうふまくおまへ〳〵。
ぐれよ。ものあもいをる。やアとをアヨウいやさア。あまや

こゝろもとなんでもせエリ（侍）「コリヤハ八ア人や。ごゝぎこよ
うりくんこゞゞ（ゞ）ア人へ（ア）「アリ（ケ）ヤこゝる。ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）

かなしてのんでいとまごんとおりのてそれをうこそこの
やうてきせるだうりてあるれおりまきこ隙ぞ
人のだうりのそちつまるのぐるいさよじやらい隙ぞ
弟の人へすくまえんをけて。おあくがあとけ猫人ものすん
ぐ八ハアそくふうるるくくい時ふいううおそるつくちおくい
そびまきようトあしくそくやくちりぐるくり月りしよ
いうびんようりかくきのうえへきのうたあくきて
四ちくくる秋の月年ちくくバ今
うくれまんうん　鳥山茶　1

かくて中清ふうう。弟九のぐ母汁ものぐちかう麦ま
内きふこりもくこそやくくあねどおふくわ清も
ちくくれくの名ふ作じくまがれくりは色ろ月
法くくまえのあ西者とふんうがるあふあも一無
ちくくこふハすくくも分の用ふおうくぐて湯用へ
ちまひのうくくえまくしぬくふぐんくもご麦汁いくく
コレハおくてびれぐまぎうまきようへくそおへくされ
きくくまくわすくぐ山けへきけぐのもおさうちのう

三册吉田

拂本菊丸

どうぢうせんそれゆへかわものはちをうづでけれくるしが。
ものをいうてさうよのどきうまをとうつ。
でもあけまきよとそんじでやつけおきまーさへうよ
おうあれちきしるイキ出きそ人ばりのへいすぐおちうづなる
ちーぬがるへいうさるあちらへ日とそそーん。十返舎の
紙芝居子。一名全南濱と中きをかーぎるは孫で
市設仆ちあがのうきを。一十年芝へと称ちーぎ。ぎうあれの
やーさんーやて。イヤせんせん。ちとおくへろぎかされまいう

せんがよござうまを（ちやうあげんこへ。はあうと
めーあがうませーーさしもいろてえうそゆくざ　ぜんとちゃ出ぶたくまさう（すんざーでも
ぜんの（いーせざ。きうーこてきやア。おめても生ぶうぶざ。おと
ちーーくせざア ちるめくト 蛙 又十二ぞうのぶうぶ。ぜんとちちきさんまるあくきとうて。ちひ
うちえるさんぜんの向ちよ。ひーーめうるさうのるふ。大ちてちちの大きさのこれ
くうきさのの。ぜて。出せうひーうぶ。ちいちちいべうあ小皿まあう。
ぜちうえ。小ちえまて（ナレト きさ八。この四ふあるまるふりのへ仙ざうう
（きれば。ちんであうこうトそしまてつきんるふりうてうさくぐえ
るゆくきも（コリト　さらどもうどちざよくくえんば不く
とつぶしー（ぶ　石ざくく　十二いーーのうりのうゆ女中（をれへ

石でざうまきと（をれ人（ぜ人（こんあくとおく久
ちきうませ（いうきあ。ちトひうと出てせの（ちコウ
ちんとだうくーんぶーーて石ざ云ゆるちあう（ゆイヤうをれ
でも。ちられる仕法ざありやアこそ。出ーーこそあうふきう
き歯ぶのちんぶざのとあげませうというこアゆでも
このいーーのこぶ（をれざうこそ。法ぶでちちーーゆも
きう蛙人（ゆイヤまちちこよ。ぶ戸で。ぶ子のこをぶいしく
とうふうう。ちこうこうヤぶんぶそあうう（リアあるゆど

そこもある。よりやをんそうの石ゞやアあるまんト
とうてつくさるぶやちうろるる
きせるのうんびまて〳〵きこえ
コリヤぞつてそろかのごとくきくもぐうそうぐでもぐく
ぶつくうがてんぐいうねぶ
ませんよろこうめ〳〵あぐうませイヤ石ぐうさめいこ〳〵
ませんちコリヤく。ぬくとんいーとうてあげヤせトいてそうも
いよくぎろくせーかいそもばんのひとうふちうねし
いつそんもこうそうとぶれくまえこれをこひるうやうて〳〵イヤかのお
うあひちうさるおいーもりそやよろこうぐぎる。ぬく

りんりいりのを実ぬいんそーまーさ。ぬ戸表ちぐぐ。
ぶちふーふ砂利をこうがくとぎうゆぐ書つけうう
表ちくちぐのようふふいそそぐぐうまをそれ
ふ又石ぶ表ぐも。ぬといぢ。ちうくだぐちぐふ。ぬ
ぐくをうぐくヤくくへまちうぐとくーもぐふぐん
ぬ物ぐぐうまを今度こ府中ふ遠国いくーくこた
る陣ぐんとをうをん表ふくれまーくがッイ
とくーぬうをうぐまーくふよおきちあくん。たうが

おりくちうて。ちゃうしに
ふぐまちやうのまと指きだう のようすいてそうんいで
りうつて。ゆうくくまあるふゆれのしてはなふのえさうい
くだん机はもようごきうやまとうう。又えびさどそうえび
はちうんようかうごうんとぞんじたい きのどくでごぎう
やとこ十二そのいしをあげうまーこうへえびまーこどんう
イやうれいめいそんうる。石とあげうとうふいけーかえん
お歯のおうんいやるさてでごきうまきと考じ考ど

いちふきうませんういるんはいちぜるんイやあのえんい
ちけいーぎざうまきと。まぐでこんまくこいふすのい。
ふけ
ふまのえれぬりのでごきうまきとうう。おのまけいー
まで。おうきちうきるーこうまがえれて。ゆくべいんは
ゲようごぎうまきとそのこうのまけいーでごきうまを
あげるのでいおぎうませんはいるんはあるかごノー
きとんまーこと一こうそんーて。あげんてはらんちうきれこ
おちつべようんげんくくちうまてこんういまあうく

ーさ内さ〜おいしの中けさ。とのせて。女りち出川うそあく。ほそ〜ふハ
てい中ぐ。ちまめでしくしてのちへ。夢をとさ〜〜。ぐんのいつよりちほ
見るまでウ月とりて。おまをしれる。ふとをつけてそろふ。ほれ
ゆうをかぐろうろしていくるれば。おきふりんしてまてふ
めづらしいおまあうう。出はしかんあんいさーまーさ。とて
かゆうふ。おちゃどゆうあるて。ねがさんをくふよくぞろひ
まーさ〜〜。イヤそれいう。ほてくさ。人あきまさと。あふ
うけませうトくてふうけうう。きいめ。ふんと。ちいで〜ちうんぐごされ
きませ。こちゃんは二本人まえい。不指いさてあうまさト
うのさとをとんをうふ。ふうりれおりーく。そのもとのよこのあくふ。ゆうかきうけて
あるゆべようんでこれがこんまのさてきこん。二十人まえてくきうけ。うりは内

道雪の紅葉よりも、はるかに、はるかに、
おいくきそうて、はめんとさうませ、やとれいよ、
たびけう。
一凡茶さん。サアくどなたもこれへ〳〵。ハイ〳〵。是八十匹金
せんせ。さてはじめておめふかり。さてさて、八幡国茶
かえれと中。まさと。つぎへ反歯日蓋呂。水晶歯磨金玉
の赤香。いづれもおんきうぐさうませ〳〵。ふせん
せんおやうなきういどぐさうませうが。おむつりうをとおやゑ。しうふと
ふとこ。扇子。えんざくなどお祝うひやーえんが。ゆうり
うもかりうち合せのおおをおきてめうぐさうませ
ト。あふぎえんざくとつれつけ。れ。ほ。ろ。まつべ。ひ。くう。ま。あげてぶんの
出ろうぶいやうてうれんといろくくうんくてもこがよえしうまん。
えれどもふくもるくさろそくふおもひつれもるれば。これまでできてお
ろくろうしくんのくとろれて。さしいらぐせばどるしどるれとらぐできえそ
「これはあくどうぐさうまをおくれやくぐさと。
きゆうまぐれるきくさてはあ屋へこうを梅やへ
二里。ゆ。なるやど。ぐあるきんとよりるお弱ぐきはぐ
の。なまこけをきくべ今ひとうろうそともつけやぬ。ちりめ
ろ孫。イヤこれは千秋寿大人のおくとでんぐさうませんろ。
「十二月とてくぐよくくと。きうも江戸中大体新の歌

これまでは、ものはどざーぬ。イヤさよ、まあ、あろが。せん
ぜんどうさまー。おあでくさんじゃ。三作殿大人。サア
茶亭大人ちがあも。おめふかまして。をなはち
おさんざーもいさでんてうまし。ぶらんなされを
びゆうぶふ。もいてござうまきとトいあへ。ふうてう
ニ作殿ーとうたて。ちのーまうこ。ぶいてあ。イヤ
きぶハおうくきのじーみれば。イヤ
うーいがくせで。人の敬ごの。ごぶらぶのぶらん。ちやべいへ
いいうござうやせぬ。コウ伊左さん。イヤ
ちうまで
乃伊殿でよくこかきうこ。おめ人のうことうたちあされば
いまトきをつけ。ぶらぶらちん。ぶいあ。ぶらいかと
ちんがーるられば。ぶいあ。ぶらいかと
うこをうくーは。きぶハもまもち。ぶいア。ぶ門春町の
ちらればうまぜのびるぶまこて。ぶいア。ぶ門春町の
モシ。あの。ぶのうこまある。ぶ
あれハ。待でござうまを。ちんでござうまを。イヤ
あれハ。待でござうまを。ちらうのおてらのあのとふ
あうハ。待と。ぶ人まうまぶ。ぶいうーさのでざざうまを
イヤあれハ。ぶでさうまを。ぶ。ぶ。ぶ

モシおうけもの〳〵ようこそいでなされまし。おうこそいで
ござりませうぞ。そいうぞ。おうまりませぬ。あれい
貧ふうこのでこさりまするとトはうちうろうろ。ハイ ひげ
つ〳〵さるうし。おうぐこぐさんでまし〳〵どれく。ゆ
あろうトひくをひきてたれば。ゆ。十上。兵今系
と部十返を一ぬ。私宅へ出る。名ぬこれ加倫
ごや
名千代屋連中。義 吉田大藤右も。世世
中ゆ。ゆ。ゆ。

かゝ。ぢ。ぢ。ぢ

のこゝであつこう[漢字]さやうく[漢字]ちやがな[漢字]
ませうの一九とゝ[漢字]んまつれて[漢字]こまいうへ[漢字]ゝ[漢字]
こいこゝろ[漢字]ちやんぜ[漢字]今ごろ[漢字]時じやくおりて[漢字]
おやぐる[漢字]されべのう[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]
かゝこまつて[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ[漢字]ゝ

ふでもてなうをせう。コヤまどたのこと。さらまは　あんなさ
まこと　トわハがぐんぐのコひとことふてんもたくんそもおりさも
まおくこまくことのつうがやうくのこいゆそそくふまさとし
まりまくとコおこう。市内のものもどもちくさごろくくとコらふ体
ぐくこくのちごくまれづにてアきこくほゆくおりーさかハ有くおまぐい

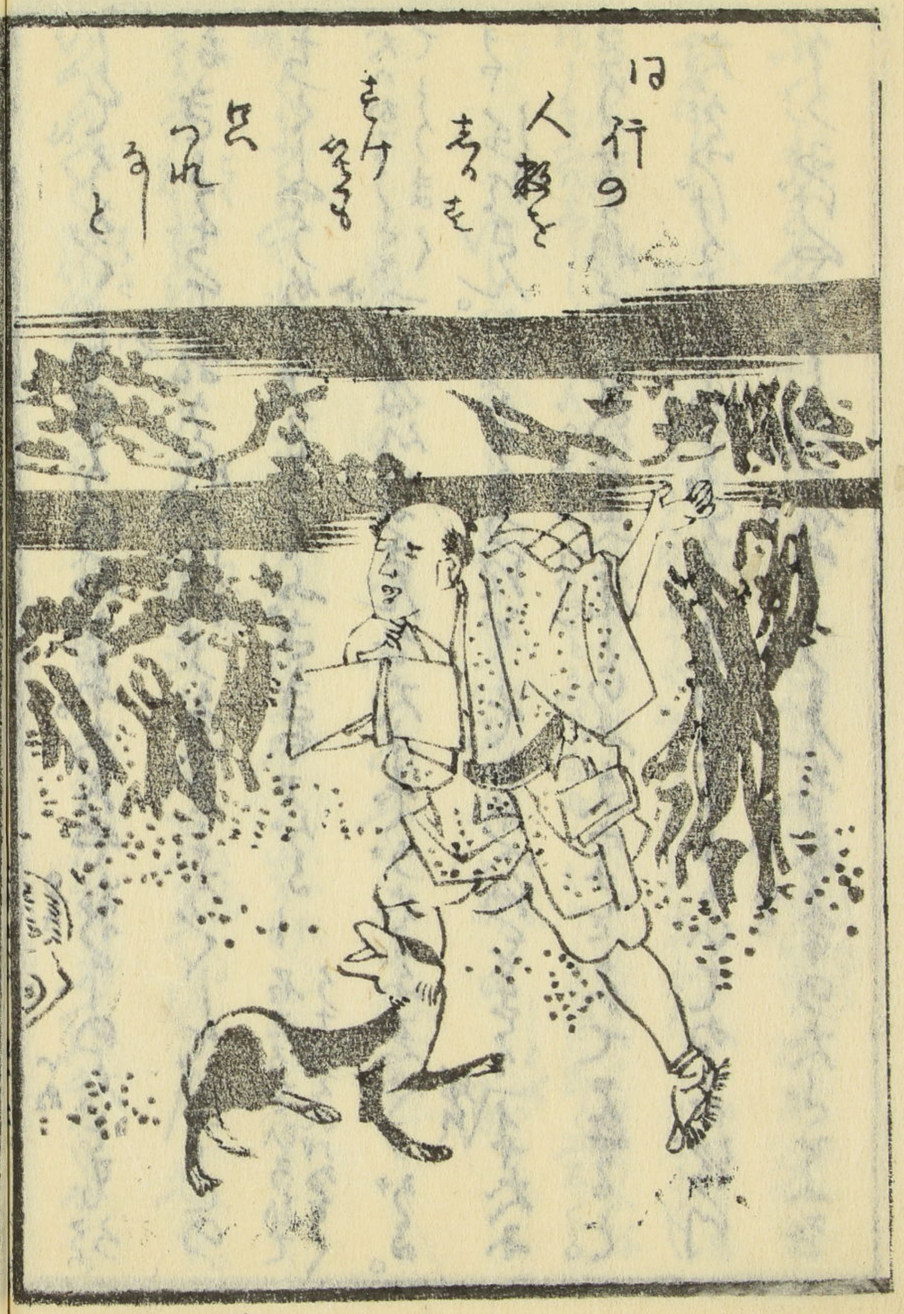
いくへまぐこそとう一ろんの恥

うれ　まて　ゆく　あんき　くんざく

かくよこてあくへコくのとのよかしぐまけくれどくもそや
まこの初まぐるとコへ。市長よ戸とこて。ひそまく久う。
いづれと能登殿　度ともコくまどこまるべ兄方もかく

くてうかくくとこどうりかどふ。あらや新十の犬ともぶ。
おきくちて乳うれば泣くきよろくくして「平てこの
ちくくゆうめくアコろくくふざきやアがるト石ころとひろひて
犬へおこうくちへくまくかなんなきんうちうれバなをく
てくうまくヨヤほれきん。おつるをつれをておめ人物をとる「イヤ大木
ろうまうれくくこ兵。富へ虎とりの文字をとて居ると。
犬がふげうとらへてこどうくさろきくくいてゆくが鉢門
くくふげやアがらぬ。ぐつくアくんる。妻まの犬どそふる

は行の
人数と
ものを
もちけるも
とゝ
ふれ
すと



レツシく　トぎゃ～ゝてゝゆくも　おひちゝてゆくも　みゝゝおもハぎ。このまちを出るぬけて「コリヤつよゝゝ」ゆく

りのぐ。まくよゆハ。ぢゃ～。あるこうぎゃア紙へうきりん

てさア紙へゆゝうせゝく「おかめくゝんぐるまとうふ。まぐ九」

ゆゆアちるめゝ。又どこぐゝ子ゝるうて人りのぐ「それぐとゝ」て。

今けふかきてゆるうちハちゝ。イヤあるぐゝ。遍向ふ

火ぐ見ゝる。アノ火と同あてるゝゝて。宿とゝのまゝ「ヲヲサ」

をれぐゝく。赤ゝ掛行の火ゝぐゝ紙へゝ「ゝんぐゝ」ゝと

ゝ。ゝのきるるゝゝりゆ火ぐ。すめと「ゝりんふ」ちりのうち

でゝくゝ火ぐ。ちゝんでゆ紙あゝゝとゝゝのんでゝ多ゝう

ゆゝゝゆゝゝとあゝ。まゝ紙ゝゝゝ。ゝゝぐゝゝとゝふゝ紙ゝゝゝ。ゝゝの自あて

火ハおのれゝくぐ。ゝゝゝ。ゝゝあ。ゝゝゝゝゝゝふゝおどゝゝき

「ハ」ゝゝゝ。あめあれぐぎゝゝゝあるひてゝりゝよゝぐ。「ゝりんふ」あア

とゝつハおゝゝ「ハ」ゝゝゝゝくゝちゝんゝゝゝゝゝゝゝゝいぐゝの火ふゝ

れぐあるくゝゝ火ゝ火ゝゝる。ゝぐゝア紙へ「ハ」十廿ゝれも茶坂

のゝゝゝゝりぐゝんぐゝゝを紙ゝ紙ゝ「ハ」ゝゝゝゝゝゝゝゝ

車のうしろ[illegible]ちゃどうしーながーこうまとあーそゆくのう。
[illegible]ーくーとーとまだゆくーおおーー月八日[illegible]れどもごさまも[illegible]
[illegible]ーのうーとさーとーあーーもまれまも[illegible]ーうーーー

びやうのでところちうもおちうふと（男）かつてくとれうう
三人とりものごうう大丈夫（男）ぶ（男）ぶ（男）ぶ

大きくあつうちぢきく　第六
あつうそのうまちうぞ　一引　ちんごろう　中八　まとそぐ　稼へうう
ぞうえ　男
乙　鰹ふちげ　人　稼人　一引　アしあれどやすめだかしてそれ人
いうれまきよいか　中八　まうえんぐ　見ゆアれきこぐ
見うんへコリヤいうれぬあくへ　男　一見　しもおまんぐとと
とよりふ又きんごぐぐあまとうとていうがん見へあく人
戻つて文ほれのくぐ出来おつうう又ぞまでとう見る
ここ戻もそなんよいううぐとうう志ちつとうとうど
ちがあけ人見ち　中八　ちんでも石紫来ごうう。稼その

乙　急ふちげ人稼人　一引　まいちぐ人へる　男　一引ぞのう
こ内ちへきあるよ志　中八　コリヤ。ごう志ふ。そも乙人
いうれぬくトうこうぐぐへうう　あうう　ちのう
とうつんぐぐおまふへ。いく弦あうう志れ人　ナ人　アエ
トううぐぐ志へ　第八　モこく。おめぐアごうう来たのさうさ
助々のくそくにふくく　中八　きえぐ
今　ハアヨしらァこの近生ぐ　中八　ぐ　ぐ稼ふあうう。ちつて洋まで
いきあうのぐ中見へ　中八　ちつうりャアいうぐて人ぐ七てきるさうさ
今　ちなくへ人へそ級で洋へいくのぐ中とへくのふ　中八　ぐ

おまんぐさま幽霊ぢゃ。秘人ぐらも人目ぢゃ。爰を
いきそこなふまぐがちゃん。ぢゃいろ。ぢゃ。ぢゃ。
まるくうんぢゃ。イヤむうふ。化ものがゐるのぢゃ。
おめへがとア。そのきくとこと。まるさつこと。
さ。コリヤちるさんちゃ。三度の度五〜度がいこらこの
おやる。〜〜〜。むうふとア。ちゃ。ぢゃ。
ア。白ぢゃのがアしく。まちろいもの。あれ〜〜。あとや
ア。おまの。ぢゃ。おまの。ぢゃ。ぢゃ。ぢゃ。ぢゃ。

月ふうの。白ちゃて。ぢゃるのじゃ。ぢゃ。ア。ぢゃ。
コリヤみちでよさぐうやと。トくをふとうれて。こへもかうと。高ちまを
けつうまう〜〜。ちのがうかうる。つぎ。おるうひつてさぐそこのあふちうう
まぐまふうぢゃ。ぢゃ。ぢゃ。

右のごとく小山の葉ゆえ折ふし流行いたしまいらるるとて
おらんかんとらく。二朱の金屋あり。隣の名和ちう
孫くをいづれもらろうんるやし
おもんかくんが　まえれる　姥ちち
それより後川を打こえて。ほうとうが
そうそう体をとさぶて。ほうとうが
ひとりはんるとこ。こちらうぶんみのらんせんこいる
ゆとこいるこいるゆとこいるゆとこいるゆとこいる
のいてゆくぐそんちうぶ。ほうをつけてのうとふと
よんぐぐ。おとものぐ後ぐる
まいこちうちうぐんぐ中ぐる
ちんやあるまさまさ
去年いてちうふあるふ
いくもちうの頃から。

五十四日ばかりあるうちに、ぼんとまめのこいとこがなくなる。
それからいとをとりて、ぼうにまきつけて、ぼうをとりて、
蜂にやらでそのまゝしておくなり。
中用とゝいふきは三年八年だらうまるこがるゝよりこと。
あゝこゝの平州でをるこゝのうまるは用樽であること思ふ。
こゝへ来てこゝはかゝるこゝとをとりけくこゝをるこゝと
ごとくこゝは使ふこゝ菜こゝ。
その三年八年でまりけこゝ。こゝ来ごこゝ。こゝ樽やこゝ
ちるどろよりまをれぐこゝ来ごこゝ屁をひるゆも出こゝ
ちるこゝちゐけこゝの畑へうけこゝいけこゝ。こゝ
こゝ菜のこゝ屁をひうけこゝいふこゝごがなるこゝ
こゝもこゝ屁こゝふるごろこゝ上方こゝふごやこゝいふ。こゝ屁を
ひうけこゝ菜こゝ。こゝ刻こゝ出ふまぜこゝ。孤こゝとゝわこゝある
ごゝ。こゝでこゝのこゝを。こゝうこゝいふこゝいふこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝあこゝけ後こゝ。こゝ度こゝこゝこゝこゝ
付こゝ二月でこゝのこゝいこゝ。こゝぐこゝ幕こゝこゝ

けつこうなる菊形の手紙なんどと。紙ちらさるゝ
いつぶ。そこらあたりちふ伽がちあるくおもしべかくやの香
のかのふきこうだの香ちさみへおもはるゝ（イヤ）
ありうおもしの気が。吉原のさとへまこふ。いとう
自慢せこうるさうのでもしやもぎくゝ吉原へいて
みたこが。ちんのさとへあやまるせんなるへやおめへ
いつごろぴきるとのさ（上方）ぶらぶらへこうこう十月附分
（陽）ちんの十月さとゝがあのてこまるのの（上方）ハアそこの日

そこぬぢも家の小家やあしにむこ手中さらうがちへ
とあこぐ色（陽）そこもやの本だらうぐろふ紙へ移ぐろあ
ア色やアーめへ（上方）さよしやもしるみイヤ又ふとこふへ生噴
とうへうこそどやが家の家芸をや。ふ生更へ又移別
ちんぐ色（陽）ふ生ぐこふへこふへだのよのこうこへ
やもとへ（上方）くふもへこうおやへ（上方）ふトまぐめふこと（上方）やそもこ
しぐ移へあけておすくゝめ。あうとふちあうなやべ。肩を裾
へいまうぐまくこと耳ふうけてちうこもそへすやこう

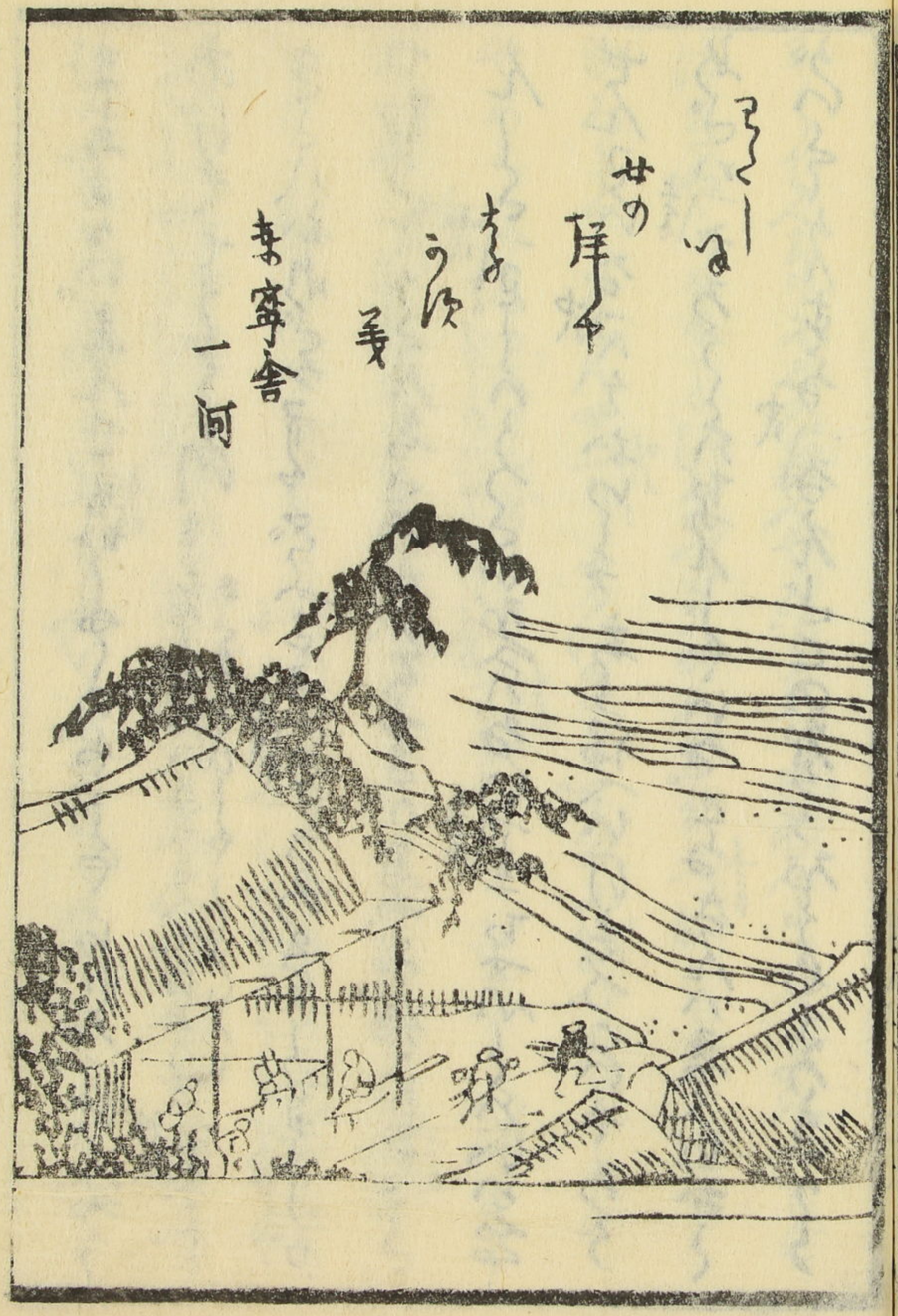
チンチリウンく　イヨ〳〵おかりうく。ナント　ひろちぶひく
くさくり。おしくてえんるさく　紙人ちへそややきいこと　しや
ひいな。ひーふついてみりなされト　山内きと　ハハ　おそるるが　一おとひろいてよるるあがら
あすろふくくすんくきんくとくとゆくてくきおとしてやくんくしゆのあく
くく　紙くくてくるくとべきくとくとよるあいむちくふるうくえ　ちまは
「時」チンチリウンくチン。ちんふおちごへきく　紙人のふへ
くくへくくそどやちんきんでも　可素の　夜及　雅剤。
「時」ヤナコリヤ　でゆいくへのあくまく　孫うちあくるる。

「時」ハハ　ちんこ　一ゥ　ぶん　今のりんくと　「上方」　ちんふおちごへきく
紙人のふくへくくちへくくへくきんちへきんでもかーやくの
ヤくくらくく　ちへ　雅剤　つくへくくあくあげて　「上方」　ヌひくくしゆく　「上方」　「アイタ〳〵」
どゆへくいぶゆつくくる。きくくつがてくちへくきくるる
トゆくくく

宮川

みやこ
ゆき
なり
宮川
井手山

楽満車
一瓜



まきよくへ。きんでもかゝゆのゝ。やゝやらやろ。はえあり
あげて。てうぐうへ。トらんどいふはうゝえて。はえ。ぶ。はえ。ゝ
きこハおめぐがりゃぐ。こりゃ。ぐ。さる。ハア。さろきうらゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
つもりとうゝんきのもこそあきんぎやをねとしてうこと
んゝこ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

張ドやアいろくるとゞあるもんゞ。ちまくけん
ゐるもちゞ一ぜんゐいや世う。モレ世中。ゆゞ番ゞあらべ
こけ人いろぜんゐ出してらんるトてれようさりしゐう上ゐ
ゐるいゐ〳〵コリヤゐらふようつことゐ
まるゐヤ
ゐーやおまいゞゐらふまとゐ出ゐやゞ出ゐろへいゐん
ぞや。ぞんといんゐれゞおまいのうれゞやまよゞぞい
ゐうしよゞやゐいゐる。こゐ三ゐ〳〵西国の妙ゐ所よ
いろゐよふゐゐ川でゐ系とおゞろうへゐ。ゐしや

あとでハゐらふきれゐうゐく。ちづら子ゐ屋の鍛の君。相
屋の松の君。ゐーう安ふ内さとろいいうんせんう
ゐふゞゐいゐトやゐうふおゐるうゐたゐうゐゐべ浦けゐ〳〵ゐ
ゐうゐとおゞてあげてあゐゞうゐふむゐさん
よゐう〳〵きゐうく。ゐふゞでおゐともいゐーてふの所ゐう
世ゐゐの松坂やゞきゐくしてゐふゐゐ屋と
ゐよゞやゐいゐゐ。サアく〳〵かゐいゐ見ゐ所ドリヤ
出ゐけゐ〳〵せゐく〳〵ト。ゐの屋代とゐ〳〵ゐ。ゐ出ゐふゐふゐのふゐゐ
れふゐゐや川とゐふゐゐてゐふいゐうて

ゐゐ川や 秋ふ 拵 縁をむさゐんと

さくらの花のうげのさらゆく
そよふく中は雨をうちさそひ花はせをとうち
こへて。山田のまちぶさしをうつる

寺侍
乃和歌　一筆毛氏編ト共